

## ASEAN グローバルプログラムに参加して得たもの

谷 本 武 琉

Takeru TANIMOTO

知能情報メディア課程 3年

### 1. はじめに

2023年8月26日から9月1日にかけて ASEAN グローバルプログラムに参加し、ベトナムのハノイに行き、WILLER 株式会社（以下 WILLER）から与えられたミッションを解決するために、ベトナム人学生と協力しながら、現地でインタビューなどを行い、最終日に WILLER ベトナム代表の箱田さんに対してプレゼンテーションを行うといったプログラムであった。

具体的な日程は以下の表1の通りである。

表1 研修日程

|          |                    |
|----------|--------------------|
| 8月26日（土） | ベトナム入国             |
| 8月27日（日） | キャリアフォーラム、市内観光     |
| 8月28日（月） | ベトナム人大学生と交流        |
| 8月29日（火） | リサーチ（旧市街、ロッセホテル周辺） |
| 8月30日（水） | リサーチ（ハノイ工業大学）      |
| 8月31日（木） | プレゼンテーション、激励パーティー  |
| 9月1日（金）  | 日本帰国               |

### 2. ミッション内容

今回のプログラムで WILLER 様から与えられたミッションは「ベトナムの交通課題を解決せよ」といったものであった。ベトナムの交通課題を解決するために WILLER ができることを、「新規性」「実現性」「事業性」、3つの観点をもとに考え、最終日のプレゼンテーションで事業内容を提案した。

### 3. 研修内容

#### 3.1 PBL アンケート

29日、30日に実施されたりサーチの際に使用したアンケートについてここでは説明する。はじめに、我々が交通課題を解決するために考えた解決策は「タクシー利用を普及させ、飲酒運転による交通事故を減らす。」といったものである。ベトナムでは貧富の差が少なからず存在し、バイクを主な交通手段としている人が多く、お酒を飲んでもタクシーを利用することなく、バイクや車を運転する人が多い。それを踏まえたうえで我々の考えたアンケートの質問内容は、「タクシーを利用しますか.」、「タクシーを利用しない理由は何ですか.」、「あなたや身の回りの人は飲酒運転をしますか.」、「お酒の入った状態でタクシーを利用するとき、いくらまでならお金を出しますか.」といった質問内容でアンケートを作成した。この作成したアンケートで工夫した点の1つは、Google Form を使用した点である。2日間にわたってアンケートを実施する予定だったので、スマホを使って答えられ、集計のしやすい Google Form を利用した。工夫した点の2つ目として、ほとんどの間において回答の選択肢を3~4個にしたことである。ある程度数値をまとめるといった意図と、答える人が答えやすいようにするためにこの形式を採用した。このような工夫もあって、2日間で125名のベトナム人の方にアンケートに協力してもらうことができた。

#### 3.2 PBL 発表資料作成

31日に実施されたプレゼンテーションで使用した発表資料の作成についてここでは説明する。29日、30日の2日間で集めたアンケート結果をもとに、発表資料を作成した。工夫してアンケートを作成したおかげで、発表資料作成を円滑に行うことができた。発表資料の作成で工夫した点は、「お金」の計算を具体的にやったことである。まず、我々の考えた解決策ではアプリを開発する必要があったの

で、アプリの開発費や運用費などを調べて、どのくらいの金額が初期投資に必要なのかを具体的に資料に記した。さらに今回考えた解決策は3年かけて利益を生むものであったため、1~3年の間で必要な経費と売り上げから、何年目で利益を生み、黒字に持っていけるかどうかを試行錯誤しながら考え記した。また、ほかの班との相違点として、プレゼン用のパワーポイントを作成せずに、事業計画書を利用して1枚にまとめたことが挙げられる。1枚にスライドをまとめたことにより、何枚もスライドを作る手間を省き、解決策の欠点はないかを考える時間や、予想される質問に対しての答えを考える時間に割り当てることができ、解決策のクオリティを上げることができた。

#### 4. 今回のプログラムを通して

まず、私が今回このプログラムに参加した理由は、自身の課題であるコミュニケーション能力、問題解決力を身に着けることと、新たな課題を見つけるためであった。実際にプログラムに参加し、感じたのは自分の考えの幅や知識の差が周りよりも劣っていたことである。今回与えられたミッションは非常に難しく、アイデアがなかなか思い浮かばない場面もあった。しかし、周りの同年代の学生は、あらゆる経験と知識から様々な意見を出していき、積極的に課題解決のためのアイデアを出し合っていた。それを見て改めて、自身の問題解決力の低さを自覚した。一方でコミュニケーション力に関しては、周

りの学生と協力しながら積極的にコミュニケーションをとり活動することができたので、プログラムに参加する前と比べて、非常に力は身についたと考えられる。

今回のプログラムに参加して得たものを踏まえて、現時点での卒業までに達成したい私の目標は、今回知ることのできた自身の課題を解決し、将来の進路を具体的に決定することである。今回気づくことのできた問題解決力をはじめとする様々な課題を、普段の生活や大学の講義などを利用して、身に着けていきたい。具体的には、普段の生活で当たり前にあるようなものや与えられた課題に対して、自分で疑問を作り、それを調べ解決していく行動を増やしていきたいと思う。また、将来のビジョンをまだ描くことができていないので、キャリアフォーラムで聞くことのできた、海外で働いている日本人方々による貴重な経験談や、PBL活動を通して得ることのできたインフラ設備や交通事情への興味、周りの学生から得られた刺激をうまく利用して、今後の将来のビジョン形成に大きく役立てていきたい。

最後に、今回のプログラムに参加して、自分の価値観や思考が大きく変り、さらに将来自分に必要なものを知る良いきっかけになった。このような機会を与えてくれた先生方、WILLERの箱田さんに感謝したい。またこのような機会があればぜひ参加したい。